資料7

第４回地域計画策定協議会　事前質問と回答　①

1 全体のスケジュールについて

No	質問	回答
1	本年度12～1月にパブコメを予定されていますが、それまでに本資料は概ね完成と考えてよろしいですか。	本計画案については、市議会に報告をする都合上、第6回策定協議会（2025年10月10日）までに案を完成させる必要があります。
2	パブコメ用の公開前に、本協議会以外での内容検討の場はありますか？（特に歴史・自然環境・地質等の専門家による資料検討の機会）	本計画案は地方文化財保護審議会である「藤沢市文化財保護委員会」においても内容の検討等を行っています。
3	一般的に“計画書”は状況により見直しが行われるものと認識しています。本計画書についても、文化庁提出後の見直し・再検討はどのくらいのスパンで考えられているものでしょうか。	ご指摘のとおり、本計画においても社会情勢の変化等により見直しを行います。該当部分の記載については、本文の5ページ「計画期間」をご覧ください。

2 藤沢市文化財保存活用地域計画（案）について

（1）全体構成について

No	質問	回答
1	以下の3か所に、かなり重複・類似する記述が見られます。各章で同様の説明を記載する意義はありますか？ 　第1章4.歴史的背景 ・ 第3章歴史文化の特徴 ・ 第7章ふじさわ歴史ストーリー 歴史的背景は、第1章に詳細を載せず、第3章を参照でよいのではないでしょうか。	歴史的背景、歴史文化の特徴、ふじさわ歴史ストーリー（関連文化財群）については、文化庁が作成した「文化財保存活用地域計画　作成のためのハンドブック（以下「ハンドブック」という。）」において、次のとおり記載されています。 ■歴史的背景 市町村の概要の1つとして、通史の概略を記載すること。（ハンドブックP43参照） ■歴史文化の特徴 多様な文化財とそれらを生み、育んだ自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景、文化財の概要などの総体。第1章（市町村の概要）や第2章（市町村の文化財の概要）を踏まえた上で、市町村の固有の歴史や文化の文脈に沿って地域らしさを記載する。（ハンドブックP48参照） ■関連文化財群 地域の多種多様な文化財を歴史文化の特性（特徴）に基づいて一定のまとまりとして捉えたもの。（ハンドブックP67参照） したがって、歴史的背景、歴史文化の特徴、ふじさわ歴史ストーリーは、それぞれに記載しなければならず、記載する意味が異なります。

（2）第1章、4 歴史的背景

No	質問	回答
1	■藤沢市域の歴史（近世～近代の藤沢宿や村々）について 藤沢市域の特徴を示すのではなく、一般的な特徴を表す内容と感じました。 例えば… （1）藤沢宿は遊行寺の門前であることで、他の宿駅にはない特徴があります。宿駅機能にフォーカスした賑わいだけでなく、別の見方を入れてはいかがでしょうか。 （2）藤沢市域はほぼ全域が幕領・天領のため、村の自治制が高まる傾向にあったはず。それを特徴として取り上げてはいかがでしょうか。	歴史的背景については、通史の概略を記載する部分であり、基本的に簡潔な記述にとどめています。時代が下るにつれて、必然的に書ける内容も増えますが、全体のバランスを考え、第2章以降を書いていく上での必要十分の記載にとどめるよう意識して記述しています。

（3）第6章　藤沢郷土資源の保存・活用に関する方針と取組

No	質問	回答
1	「課題2 把握調査が不十分」というのは、どういった意図でしょうか。未指定文化財についての調査？ まだ未指定にも上がっていない資料の発見・発掘調査？	ここでいう「把握調査」は、「現在まで把握できていない文化財を把握するための調査」です。前者の調査は、取組1－1に挙げています。
2	「方針2 把握調査を推進する」の取組内容を見ると、既に郷土歴史課にて実施なさっている内容と見受けました。基本的に、新たなアクションアイテムを設けるというよりも、現状活動の継続と見てよいですか。	本計画は文化財の保存と活用に関する総合計画であり、掲載した取組は課題や方針に基づいたもののうち主なものを挙げています。したがって、新たな取組だけではなく、既存の取組ついても記載しています。 なお、「2-1把握調査の検討」は、以前に文化財総合調査を行ってから30年以上経過していることから新たな調査を検討するもの、「2-2文化財調査報告書の作成」は毎年継続して行っているものです。
3	「方針3 収蔵資料の整理を推進する」の3-2に、データベース（DB）の構築とあります。これはデジタルアーカイブの想定でよろしいでしょうか？ また、想定されているDBの概要について、他自治体での具体例などあれば、お教えください。	「3-2データベースの構築」は、デジタルアーカイブではありません。これは、考古資料、民俗資料、歴史文化資料ごとで別々に管理していたものを、統一したデータベースを構築することで、把握した情報を効果的に活用できるようにしようとするものです。現在のところ、他自治体の例は把握していません。
4	また、“いかす”の方針10～13に、DBを使用した取組内容がみられないことも気になります。	デジタルアーカイブについては、ホームページ「電子博物館みゆネットふじさわ」において公開を行っています。このことは、「方針4　歴史や藤沢郷土資源に関する情報発信を強化する」において、「4-1ホームページの充実」として記載しています。
5	取組に関する市民、団体の関わり方について 市民は、各種イベントへの参加の他、ボランティア団体の活動としてかかわるという位置づけでしょうか。文化財を“まもる”、“いかす”仕組みづくりに個人で係ることはできますか。	市民による取組への関わり方として、第8章「2　各主体の役割」において、文化財保護推進員や民俗資料整理ボランティア、自治会町内会等による取組を記載させていただきました。市民の方がめざす将来像や基本目標に向けたさまざまな取組に関わることを期待しています。
6	団体については、既存団体（主に藤沢宿交流館？）が前提でしょうか。今後、外部団体に事業委託すること（例 図書館の運営のように、DB構築・運用を委託するなど）は、想定されていますか？	関係団体として、同じく第8章「2　各主体の役割」において、策定協議会の委員のみなさまの選出母体を中心にさまざまな団体を記載させていただいています。それぞれの団体が有する専門的な知識やノウハウ等を活かした取組を期待しています。 なお、各取組において、事業を委託することは現在考えていませんが、必要に応じて検討を行っていきます。

（4）第7章　ふじさわ歴史ストーリー

No	質問	回答
1	歴史ストーリーについては、歴史的概要をまとめるだけでなく、もっと異なる切り口で再構成してもよいのではないでしょうか 。 掲載された4つのストーリーは、藤沢市域の歴史的背景の要約版であり、ストーリー性が感じられませんでした。本章“考え方、目的”に書かれている通り、歴史ストーリーとしてもっと大胆に再構成して考えるべきではないでしょうか？ 例えば… 文化財としてクローズアップしたい4つをカテゴリとする。そのカテゴリ内に、いくつかの小ストーリーを展開する（以下、思い付きですが例を書きました）。 ［文化財ストーリ群1：藤沢を駆けた中世武士たち］ 大庭御厨と大庭城とは時代も離れており、歴史背景も大きく異なります。それぞれを正しく理解するためには、別々のストーリーとして語る方が伝わりやすいのではないでしょうか。 ［文化財ストーリ群2：信仰と観光の島について］ 江の島を全方位で一つのストーリーとするのは難しいと思います。多面的に捉え、それぞれをストーリとしてまとめてはいかがでしょうか。 ストーリー3，4についても、内包する特徴を捉えて、小ストーリーを組み合わせることで、“再構成”ができるのではないでしょうか。	ふじさわ歴史ストーリーは、多種多様な文化財どうしの“つながり”に着目し、その“つながり”を「ストーリー」として捉えることで、包括的・効果的に活用していこうという枠組みの考え方です。その上で、今回は4つの“つながり”をピックアップし、「ストーリー」を持たせています。それぞれの大きな“つながり”の中でも、捉え方によってさまざまな小さな“つながり”を持たせることができるのはお見込みのとおりであり、本文中ではそれらをトピックとして切り分けています。 現在は文章と表のみの記載ですが、最終的にはここに図や写真を加え、視覚的にも捉えやすくしていきます。
2	各ストーリーと、それに関連する文化財のマッピングの図は必ず必要だと思いますが、どうでしょうか（できれば、表ではなく地図上で示せるとよりわかりやすい）。	説明図の作成は進めています。構成も概ねお見込みのとおりです。